

としまだより 6月

2022年6月20日
 上野台小学校 学校図書館支援員 矢部

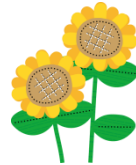


雨の日は学校図書館へ行こう！

雨の日が増え、なかなか外で遊ぶことができませんが、そんな日は読書をして過ごしませんか？雨の日が楽しくなるような本も用意して、みなさんが来るのを待っています♪

お知らせ 7月の予定

かりる日：7/1（金）まで
 かえす日：7/8（金）まで
 返し忘れがないようにしましょう



夏休み前の本の貸出について

夏休み中に読む本の貸出をします！かりるときの決まりがあります。
 カウンターでも確認してくださいね♪

貸出期間：7/11(月)～7/15(金)
 貸出冊数：5冊まで
 返却期間：8/29(月)～9/2(金)

- 人気がある本や新しい本は1人1冊
- 貸出期間中は本をかりることしかできません。



7月

月	火	水	木	金	土	日	
				1	2	3	
		← 1学期の本をかりる →					
4	5	6	7	8	9	10	
	← 1学期の本をかえす →						
11	12	13	14	15	16	17	
	← 夏休み前の貸出期間 →						
18	19	20	21	22	23	24	

読書感想文 課題図書

読書感想文全国コンクールの課題図書が届きました。学年ごとにまわっていますので、課題図書で応募しようかなという人は、ぜひ手に取ってみてくださいね。

★ていがくねん

『つくしちゃんとおねえちゃん』 いうみく/作, 丹地陽子/絵, 福音館書店

おつかいで、つくしにはおさいふも荷物も持たせてくれない“しっかりもの”のおねえちゃん。つくしのせいでちこくしそうになると、走れない自分をおいて「先にいきな」と言ってくれるおねえちゃん。つくしにちょっといじわるだけど、大好きなおねえちゃんなの。

『ばあばにえがおをとどけてあげる』

コーリン・アーヴ エリス/ぶん, イザベル・フォラス/え, まつかわまゆみ/やく, 評論社

ファーンはばあばが大好き！いちばん好きなのはばあばのえがお!!でもこのごろ、ばあばの元気がない。笑わなくなってしまったのだ。そこで、ファーンはどうしたら、ばあばが笑ってくれるかをかんがえて…。

『すうがくでせかいをみるの』

ミゲル・タンコ/作, 福本友美子/訳, 西成活裕/日本語版監修, ほるぷ出版

うちのかぞくには、みんな好きなことがある。パパは絵をかくこと、ママは生きものの観察、おにいちゃんは音楽。わたしの好きなことは…。かずやかたちを好きになった女の子のお話。

『おすしやさんにいらっしやい！生きものが食べものになるまで』

おかだだいすけ/文, 遠藤宏/写真, 岩崎書店

海で泳いでいた魚が、おいしそうなおすしになるまでを順番においかけます。おすしになった魚をみて、ついつい「いただきま〜す！」なんて言いたくなっちゃう！おすしやさんへ行きたくなる写真絵本。

ちゅうがくねん
★**中学年**



『みんなのためいき図鑑』
むらかみ 村上しいこ/作, 中田いくみ/絵, 童心社

何かあれば「たのんだよ」と言われてしまう“たのちん”。班ごとに「オリジナル図鑑」作ることになったが、たのちんの班だけテーマが決まらない。班員から「あしたまでにかんがえてきてよ」といわれ、たのちんからはためいきが。帰宅して、一生懸命考えていると「ここから、だしてや！」と保健室登校の班員、加世堂さんが書いた「ためいきこぞう」のイラストがいう声が出て！

『チョコレートタッチ』
パトリック・スキン・キャリング/作, 佐藤淑子/訳, 伊津野果地/絵, 文研出版

ジョンはおかしが大好き。とくにチョコレートには、めがない。でも好きすぎて、ごはんは残して、おかしばかり食べていた。ある日、ひろった不思議なコインで買ったチョコレートを、その夜こっそり食べてしまう。すると次の朝、歯を磨こうとしたら、歯磨き粉がチョコレート味に！

『111本の木』
リッ・シン/文, マリアヌ・フェー/絵, こだまともこ/訳, 光村教育図書

大理石を地中から掘り出すせいで、辺りは荒地になっていた。これでは畑にもできない。このまま村はどうなってしまうんだろう…。スダールさんの心には様々な思いや願いがあふれます。お腹を空かせた人がひとりもないように。女の子も学校へ行けるように…。これから話すのは、環境問題やジェンダー平等について本当にあった物語です。

『この世界からサイがいなくなってしまう アフリカでサイを守る人たち』
味田村太郎/文, 学研プラス

あと20年たったら、サイはアフリカからいなくなってしまうのではないかとされています。サイの角をねらって密猟がおこなわれているからです。サイを守るために立ち上がった人びとと密猟者との闘いに迫るノンフィクション。

こうがくねん
★**高学年**



『りんごの木を植えて』
おおたにみわこ 大谷美和子/作, 白石ゆか/絵, ポプラ社

おじいちゃんたちと一緒に暮らすみずほ。ある日、おじいちゃんが日課の散歩をしていないことに気づき、おじいちゃんのがん再発が判明する。ところが本人は、積極的な治療をせず自分らしく生きて死にたいと言う。治療をうけてほしいが、本人の意思も尊重したい、と家族は葛藤し…。

『風の神送れよ』
くまがいちせこ 熊谷千世子/作, くまおり純/絵, 小峰書店

長野県南の山あいでは、毎年2月に「コト八日行事」が行われる。神様をいまひとつ信じられない優斗は子どもだけで行うこの行事で、今年「頭取」の「補佐（副リーダー）」を務めなければならない。「ねむい、寒い、めんどくさい」の三重苦でこれまでにないがしろにしてきたが、そのせいか今年、楽しい学校行事のたびに体調が悪かった…神様の罰だろうか？実在の伝統行事を描いた物語。

『ぼくの弱虫をなおすには』
K.L.ゴ-イング/作, 久保陽子/訳, 早川世詩男/絵, 徳間書店

1976年アメリカ。ゲイブリエルは弱気で身体も小さな男の子。こわい上級生がいるから「5年生にはならない」と言う。しかし親友のフリータは、こわいものを克服し強くなろうと考える。ゲイブリエルの「こわいもの」は38個！夏休みの間に1つずつなくして、5年生になると思えるくらい強くなれるのだろうか？

『捨てないパン屋の挑戦 しあわせのレシピ SDGsノンフィクション 食品ロス』
井出留美/著, あかね書房

日本では、パン屋さんは朝から晩まで休むことなく働く。1日が終われば、そうして作った大量のパンを廃棄する。それは、消費者が「焼きたて」「いろんな種類」を望むから。自然を愛し、「いのち」の循環を大切に考えるパン職人、田村陽奎さんが、「捨てないパン屋」になるまでを描いた伝記。